



迎春

新年のご挨拶

美瑛町社会福祉協議会 会長

青田 義政

明けましておめでとうございます。

町民の皆様には、ご健勝にて新年をお迎えのこととお慶び申し上げます。

日頃より社会福祉協議会の諸活動に対しましては温かいご支援を賜り、心から感謝申し上げます。

昨年は、2020年の夏季オリンピックが東京で開催されることが決定、富士山が世界文化遺産に登録されるなど明るい話題があった反面、問題山積の福島原発の汚染水、食の偽装表示問題のほか消費税増税が決まるなど不安な話題もありました。

新しい年を迎え、これからも良いことや悪いこと色々なニュースに接することがあるかと思いますが、今後も社会福祉協議会では家庭や地域の中での助けあい、支えあいを取り戻す活動をこれからの重点課題として活動をしようと考えています。

普段の暮らしでも、お隣と仲良くすることは当然のことですし、一番顔を合わせるのも隣の人です、何かあったとき真っ先に駆けつけてもらえるのは隣人です。そのコミュニケーションを常日頃から取っていくことが、地域の中での助けあい、支えあいに繋がる第一歩といえます。たとえば、お隣がひとり暮らしのお年寄りだったら、朝、「カーテンが開いているか」夜、「電気が点いているか」など、それだけ見ていてあげるだけでもささやかな支えとなります。

そのため、当社協では2年前から下記のような「美瑛町社会福祉協議会の進むみち」をさだめ活動の指針といたしました。

本年も、行政区長や町内会長、民生委員、福祉推進部長などの福祉関係者と地域の皆さんとが協力体制を築きあげられるよう、役割を果たして行きたいと思っております。

これらの活動につきましてお気づきの点などがありましたら是非ご意見を寄せていただきたいと思います。

どうか本年も昨年同様、皆様方の一層のご支援と協力を賜りますよう心からお願い申し上げますとともに、町民の皆様にとりまして、実り多き年でありますようにご祈念申し上げます、新年のご挨拶といたします。

美瑛町社会福祉協議会の進むみち

私たち社会福祉協議会は、
次の考えに立って
美瑛町のコミュニティづくりを進めます。

1. 助けあい支えあいを基本として、
家庭や地域づくりをめざします。
1. 自発的な行動をとうとび、
自らの地域は自らでつくる気持ちを大切にします。
1. 地域の関係者と一体になり、
心豊かな社会の充実をめざします。
1. 住み慣れた地域を大切に、
安心して暮らせる福祉の向上に努めます。



TOPIC 1 行政区・町内会福祉活動レポート④ 《北瑛》除雪ネットワーク

昨年度のコミュニティづくり研究会で、「地域の助けあいによる除雪活動」が地域表彰となった【北瑛公民分館】。12月の福祉推進部長会議の中でも具体的な取組みについて質問が上がりました。10年以上の試行錯誤の中から生み出された《北瑛方式》について、その中心となって活動を続ける北瑛公民分館長の堀内重夫さんにお話を伺いました。

Q: 除雪対象は?

冬期間除雪をすることが困難な高齢者家庭が対象。今年度は4世帯が希望しています。

Q: 誰がどのように手伝ってくれるの?

同じ班からそれぞれ1~2名が専属で除雪ボランティアとして協力してくれます。積雪の状況を見ながら、必要に応じてトラクターでの除雪活動を行っています。

Q: 支払いは?

利用者には協力金として年間2,000円を分館に納めてもらっています。

Q: 分館事業のメリットは?

15年程前、福祉ネットワーク活動として、除雪が困難な家庭に絞り込み、近所で除雪作業をしていただける協力者を探してボランティアによる除雪支援を開始しました。当初は無料で実施していましたが、現在は分館事業として、除雪協力者への依頼活動を行う他、年間2万円の助成金を出して活動を支援できるようになりました。シーズン前後に行政区長・班長・分館役員らによる運営委員会を開き、対象者の選定や反省点を話し合う場を設けています。また老人会との情報交換も行なっています。ボランティア活動は希望する人と協力する人の中に入って調整する機関が必要だと思います。

Q: 今後の課題は?

中高生にもぜひ除雪ボランティア活動に興味を持ってほしい。地域の福祉課題に触れる機会にもなり、福祉教育に繋がる重要な取組みだと感じます。



ご厚志ありがとうございます。

平成25年11月19日~12月18日

(敬称略)

■香典返しに代えて

佐藤公俊	10,000円	木村 真	10,000円
宇野佳子	20,000円	関口茂樹	10,000円
植田みさを	50,000円	石黒 博	50,000円
高谷和秀	10,000円		

■寄贈品

戸島あかね オープンレンジ2台
里 典子 リングブル 下羽婦人部 タオル

※匿名にて
ガラステーブル、
時計、新米20kg
紙オムツ・パッド
リングブル



12月3日、北海道コカ・コーラ
ボトリング㈱様より飲料536本を
ご寄贈いただき、福祉施設に
お届けしました。
温かいクリスマス・プレゼントを
ありがとうございました。

編集後記



~社協役員・日々是好日リレーエッセイ~

【備えあれば患いなし】

副会長：吉川幸男

暮らしの中での日本の“ことわざ”です。意味は、普段から準備していれば万一のことが起こっても、少しも心配がない、ということ。誰でも知っている諺で、それを欠くことは暮らしが成り立たなくなることも良く承知しています。でも万全の備えはなかなか難しいもので、言うは行うより易いです。しかし、自分の命・財産を守るとなれば話は変わってきます。

昨年6月に東日本大震災の被災地・南三陸町に足を運び、災害時の教訓を学ぶことができました。東北地方の文化・伝統を語り継ぐ「語り部」さんのお話からです。「いつも津波の襲来で悩まされてきた三陸沿岸の人々は、今回も先人の教えを守り、いち早く避難し死を免れています(備え)」、「日頃から隣近所とは常に仲よくしていなければいけません。天災でいち早く人を助け出すことが出来るのは、隣の事を何でも知っている隣人なのです(絆)」と絆と備えの大切さを語ってくれました。そして体験は貴重な財産であり、この震災から学び、得たものを後世に伝える責任があるとも語っていました。私たちは日常の暮らしの中で、ややもすれば忘れがちですが、この教訓(絆と備え)を暮らしの中に活かしていくことの大切さを痛感しています。